

今回のトレーニングドッグ

Training
セラピードッグへの道

セラピードッグの
基本トレーニング

今回のテーマ: **車いすに慣れる**

きび **やってみよう!
Let's try!!**

目標 車いすをこわがらず、
トレーナー(自分)の指示に従うことができる。

☆トレーニング☆

Dogセラピー事業部のセラ
ピードッグとセラピストは、毎
週1回、笠木恵子先生のトレ
ニングを受けています。
笠木恵子先生
My Dog Training School 主宰
家庭犬訓練士

ORANGE JACKET
Dog Therapy

有限会社かりゆし
ドッグセラピー事業部 会報誌

Vol. 20 / 秋号
2015年

Contents

- ドッグセラピー症例報告
- 犬種と適性について
- 新しい仲間がやってきました!
- コラム:ドッグセラピーの現場から
- おしらせ:オレンジカフェ
- トレーニング:車いすに慣れる

Step1 車いすに慣れる

ドッグとアイコンタクトを取りながら、車いすのまわりをぐるりと1周します。よくできたら、しっかりご褒美を与えてほめましょう。

Step2 車いすの横をいっしょに歩く

トレーナー(自分)が車いすに乗り、ドッグとアイコンタクトを取りながら前進します。ドッグには、車いすの斜め前を歩くように指示します。

コラム
車いすの部位と名称

①手押しハンドル ②グリップ ③介助用ブレーキ (または制動用ブレーキ) ④バックサポート (背もたれ) ⑤ブレーキ ⑥ハンドリム ⑦ティッピングレバー ⑧駆動輪 (大きい車輪) ⑨キャスト (前輪・小さい車輪) ⑩アームサポート (肘掛け) ⑪サイドガード ⑫シート ⑬レッグサポート ⑭フットサポート (足台・足置き)

⑥ハンドリム 大きい車輪の外側にくるりと固定された輪っかのこと。利用者が自分で車いすをこぐとき、この輪を両手で回します。左右のハンドリムを同じ力で前方に回すと直進し、後方に回すと後退します。また、右側だけを回すと左に曲がり、左側だけを回すと右に方向転換できます。

⑦ティッピングレバー 介助する際、ティッピングレバーを片手で押さえてグリップを後下方に引くと、前輪が持ち上がり、段差を乗り越えることができます。

Step3 第三者に付き添って歩く

第三者(利用者様の役)に車いすに乗ってもらい、トレーナー(自分)が車いすを押して前進します。ドッグには、車いすの斜め前を歩くように指示します。リードはダブルリード(2本)です。トレーナー(自分)はリードを短く持ち、利用者様用のリードは長くしておきます。
※ 利用者様の役の人にもご褒美を与えてもらったり、褒めてもらったりしましょう。

Step4
犬を車いすに乗せて歩行

車いすのシートにドッグを後ろ向きで乗せ、アイコンタクトを取りながら車いすを押して歩きます。
※ 車いすを歩行器のかわりに使って利用者様の歩行訓練を補助するためのトレーニングです。

アルツハイマー型認知症高齢者に対する ドッグセラピー症例報告

Mさん (当時91歳・女性) 実施期間 2014年6月~2015年1月

ドッグセラピー導入後
約半年で帰宅願望・介護拒否がなくなり
活動量やコミュニケーションが増加

自宅で長女と2人暮らしだったMさんは、物忘れに加えて転倒が増えて目が離せなくなったため、特別養護老人ホームに入所。ところが帰宅願望が強く、それを軽減しようとベッドではなく畳を敷いて自宅に近い雰囲気を作りましたが効果はありませんでした。Mさんは何もかも忘れてしまう自分を責めて自虐的な「負の言葉」を発し、自分の殻に閉じこもるように。ふさぎ込んでしまうと入浴など必要な介護も拒否していました。

ドッグセラピー導入後の変化

- ・セラピードッグが来室するだけで自発的発語・行動・笑顔がたくさん見られた。
- ・自宅の飼い猫との違いや自身の過去の経験など話題が多岐にわたる。
- ・会話の認識、判断、理解力の向上も見られた。
- ・セラピードッグに対し『(以前より)重うなった』『(いつも)あつという間に食べるんじゃ』『(いつも)ようけ食べるんじゃ』など近時記憶ができていたような語りかけが多くなる。以前より大きな声量ではっきりとした発語が見られる。

課題・問題点

- 1 自発行動はあまり見られず、自虐的な発言がある。活動性が低下している。
- 2 食事は自室で行っている。
入所約1か月後にチーム・ミーティングを実施。Mさんは自宅で猫を5匹飼っていたほどの動物好きということで、協議の結果、ドッグセラピー導入を決定しました。

【変化点・結果】

- Vitality Index(意欲の指標)
導入前...5点→2015年1月(セラピー中)...7点(総点10点中)
- セラピードッグについての質問
導入2ヶ月目...0点→3ヶ月目...12点(最高点)

目標

- 1 発語・活動など自発性の誘発(暴言など不穏症状の軽減)
 - 2 自発行動の誘発による活動量の拡大と
廃用性症候群(活動性が低下したことで起こる心身の機能低下)の予防・軽減
 - 3 セラピードッグとの触れ合いを通じ、気分転換を図り、意欲向上によるコミュニケーション能力の促し
- ★長期目標:車いすの自操

セラピー実施方法

- 1 セラピードッグ(シャイン)との自由な触れ合いを通じ、快情動による自由な発語・動作の促し。
 - 2 セラピードッグへご飯をあげたいという役割感の表出後に、フード係の取り組みを行った。
- 頻度:週2回 (各20分程度)

Mさんは、2014年7月にテレビせとうちで放映された特別番組「犬たちが開く心の扉~ドッグセラピー 認知症への挑戦」の中で紹介されています。撮影時はドッグセラピー導入初期でした。その後、Mさんは短期間で長期目標の「車いすの自操」も達成し、ドッグセラピーを終りました。担当ドッグの名前の記憶までは達成できませんでしたが、「メス、大きい、ご飯が好き」など、たくさんの思い出を語っていただけるまでに記憶力は向上し、関係性が構築されました。現在、さらに笑顔が増え、入居仲間と一緒に食事できるようになり、帰宅願望は消えました。車いすを自操して食堂に出てこられるなど、介護者の負担軽減にもつながっています。すっかり落ち着かれた様子で、一時外泊しても施設に戻って来られます。

同番組は、全国地域映像団体協議会主催「全映協グランプリ2015」の中四国地区予選を最優秀賞で通過し、本選に進みました(11月に結果発表)。受賞の決め手は「犬と関わることで患者の表情が変わっていく様子をよく描いていたこと」。Mさんのおかげでドッグセラピーの効果を多くの人々に知っていただくことができました。Mさんとご家族に改めて感謝を申し上げます。

特別番組「犬たちが開く心の扉~ドッグセラピー 認知症への挑戦」はテレビせとうちのHP(<http://www.webtsc.com/prog/dog/>)で視聴していただけます。

(お問い合わせ)

有限会社かりゆし ドッグセラピー事業部
〒701-1333 岡山県岡山市北区立田587番地
TEL.086-905-0111(直通) FAX.086-287-8261
E-mail. dog_therapy@ikenaga-group.jp
<http://www.therapydog.jp>

犬種と適正について

犬種や性格にあった得意な活動を見分ける

犬種や大きさ、性格によって、得意なセラピー活動と、あまり向いていない活動があります。とはいえ、個々のセラピー犬の性格や利用者様との相性などによっては異なる結果が現れることもあるので断定はできません。そこが、ドッグセラピーの奥深いところかもしれません。ドッグセラピー事業部では長年の経験・データをもとに、セラピー犬達の適性を下記のように考えています。



シャイン ラブラドル・レトリバー(純血)

誕生日 2009年7月14日 性格 メス

性格 人なつっこい、元気いっぱい

【得意なセラピー活動】

- ・車いすや杖などを使った歩行訓練の補助
- ・キャッチボール

※小型犬より大型犬のほうが、利用者様の目線の高さに近いので、歩行訓練・車いすの補助に向いています。利用者様がドッグの顔をのぞき込む格好にならず、自然な姿勢で訓練していただけます。



足守メロン 雑種(不明)

誕生日 2006年3月21日頃 性格 メス

性格 集中力がある、プロ意識が高い人の心を感じ取れる

【得意なセラピー活動】 ・集団セラピーでのゲーム ・ジャンプ



きび 黒柴(純血)

誕生日 2009年2月15日 性格 オス

性格 集団は苦手、プロ意識が高い対象者への集中力が抜群、おとなしい

【得意なセラピー活動】 ・個別セラピー(利用者様に寄り添うセラピー)



ひな 雑種(トイ・プードル×マルチーズ)

誕生日 2012年12月15日 性格 メス

性格 人なつっこい

【得意なセラピー活動】 ・ホールディング(抱っこ・小さいドッグを好まれる方に) ・ベッド



ゆき トイ・プードル(純血)

誕生日 2011年2月26日 性格 メス

性格 トレーナーの指示に集中できるロングリードで遠隔指示が可能

【得意なセラピー活動】

- ・ホールディング(抱っこ・小さいドッグを好まれる方に)
- ・利用者様の呼び声に反応して走って近寄る
- ・すごろくゲーム ・ベッド

※認知症の患者様は、小さくてふわふわしたドッグを抱っこすると最初は「ぬいぐるみ」だと思われる場合があります。ところが、ドッグが「生きている」とわかること、「この子を大事にしてあげたい」という気持ちを表現されるようになり、ドッグに対する接し方がやさしくなります。「ドッグの体重や体温」を感じることで、脳の何らかのスイッチが切り替わるのではないかと、私たちは考えています。

NEWS // 新しい仲間がやってきました! //



はじめまして!
いろはです。
よろしく
お願いします!

2015年6月22日は、ジャスティンが亡くなって2回目の命日でした。この日、足守メロン(9歳)の次期後継ドッグとなる新たな仲間に出会えました。きっと、ジャスが選んでくれたのだと思います。このたび、「あにまるセカンドライフ岡山」のグリコさま様と兵庫県西宮市のボランティアの皆様、笠木恵子先生にご尽力いただき、岡山市保健所から子犬の譲渡を受けることができました。皆様のご協力がなければ、こんな良い子に巡り会うことはできませんでした。心より御礼と感謝を申し上げます。ありがとうございます!

メロンは、縁あって動物愛護センターから譲り受けたドッグ。私たちは、メロンと同じような状況にある茶色系・和犬系の物怖じしない好奇心のある子をずっと探していました。「いろは」は、はじめの一歩です。「この子から新しいセラピー犬の時代が始まるぞ!」という願いを込めて命名しました。



6月 初日からフィールドでおしりをフリリ、とても「タフな印象」。



8月には体重が4.4kgに増え、足も少し長いシタメに姿が似てきました。



9月現在のいろはは、体重7kgまで大きくなりました!

6月23日の午後、ご尽力いただいた方々と一緒に私たちは岡山市保健所へ。茶色でメスばかり5頭。その中で1頭だけ、少しみんなから離れていた、華奢な体格の子に目が留まりました。ダルそうな表情、ポテポテした動き、ほとんど一目惚れで決定(一緒に保護された姉妹たちは、岡山市民向けに一般譲渡されました)。その場で検便検査(-)、9種混合ワクチン接種、マイクロチップの埋め込み処置を行った後、無事に引き取り完了しました。初日から食事もしっかり食べて、部屋を歩き回ったり、おもちゃで遊んだり、見慣れない環境に物怖じせず、セラピーに向いている素質満点。セラピー犬達にも簡単に挨拶していましたよ。

性別:メス 犬種:不明(和犬系)
生後約1ヶ月半(保護日6月19日)
体重:1.9kg 身長:約51cm

column

コラム ドッグセラピーの現場から

vol.5

ドッグセラピー導入の手順②

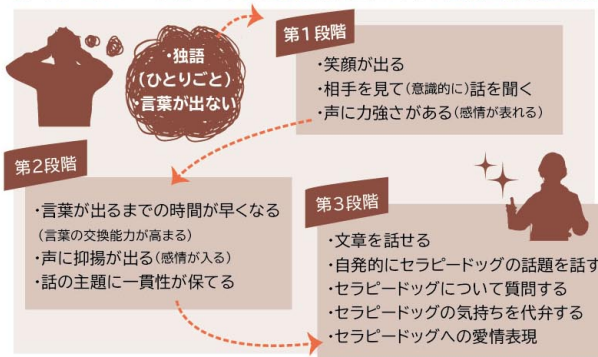
私たちは個別ドッグセラピー導入にあたり、「セラピードッグと利用者様の関係づくり」を最も大切にしています。理由は、両者の間に「ある種の関係」が形成された後に、その関係を介して「この子を守りたい」という使命感や、「この子の役に立ちたい」という役割感、「この子に好かれたい」という欲求といったプラスの感情が自発的に引き出されるからです。そのプラスの感情が一定のレベルまで増大すると、認知症患者様の抱える「不安感・焦燥感・ストレス」などの軽減につながり、それが認知症周辺症状の減少やリハビリ意欲の向上といった心身による影響を与えているのではないかと、私たちは考えています。

ドッグセラピー事業部では、セラピードッグと利用者様の関係性の指標として、独自に考案した「ルーティーン表」を活用しています。一定の基準をもとに関係性を数値化し、その段階に応じて目標達成に向けたアプローチを実施しています。

【ルーティーン表】

項目		評価基準
記憶	セラピードッグのこと	3:覚えている 2:ヒントあり 1:見たことはある 0:覚えていない
	表情	3:セラピードッグへ向けての笑顔 2:スタッフなどへの笑顔 1:険しくなる 0:無表情 無反応
行動	なでる	3:頻繁になでる 2:自発的に手を差し出す、触る 1:促しにてなでる 0:なでない
	役割	3:なでる以外のセラピードッグへの行動 2:数回の促しにて(2回以下) 1:促しにて 0:なし
意欲・自発性	呼ぶセラピードッグの名前	3:自発的に呼ぶ 2:ヒントあり(名札など) 1:促しにて呼ぶ 0:呼ばない
	セラピードッグと会話	3:自ら話しかける 2:声かけに開いた返答あり 1:声かけに閉じた返答あり 0:なし
発語	他者と会話	3:周囲にも話しかける 2:自発的に 1:スタッフから(挨拶を含む) 0:なし

【ドッグセラピーによって引き出されるプラスの感情と行動変化】



おしらせ

いきがいライフたかまつ 「おかやまオレンジカフェ」(認知症カフェ) 毎月2回 ドッグセラピー(集団)に参加してみませんか?

ドッグセラピー事業部は、特別養護老人ホームいきがいライフたかまつ(社会福祉法人義風会)の「オレンジカフェ(認知症カフェ)」で月2回・各20分程度のドッグセラピー(集団)を実施しています。これは、岡山市の「認知症施策の指針(岡山市版オレンジプラン)」に基づく民間委託事業で、厚生労働省「認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)」でも認知症カフェ等の設置は推奨されています。また参加者様には、笑顔や会話が增えるなど好ましい変化が多く見受けられます。中には、ずっと家に閉じこもりがちだったけれど毎回カフェに通ってこられるようになり、デイケア利用につながったケースもあります。



開催日時

毎月第2・4水曜 13時~15時

※ドッグセラピーは13時30分頃から20分程度

喫茶協力

ボランティア団体「ひまわりの会」(高松地域)

メニュー

ドリンク(お菓子付き)各100円

場所

いきがいライフたかまつ 1階・地域交流ホール(岡山市北区立田586-1/tel.086-287-8880)

参加申し込み先

介護高齢者ドッグセラピー普及協会 E-mail info@therapydog.jp

※見学、ご家族の付き添いも遠慮なくご連絡ください。

